

いすゞのみなさん

トラックくねくねとめぐりがとう

寺本 建雄

二月十六日、小雨なので奇贈式は工場の中で行われた。死ぬほど広い工場だ。もちろんバスもトラックもそのまま入れる。

入り口にのぼり旗めき、劇団から運んでいったトラック三台バス二台勢揃い。川崎工場は一気に明るく派手派手。ただくであろうトラックには紅白幕がかけてある。マイクや下座バンドセッティング。工場はガッチャン、ガガガ、デデデ、すごい音。十二時に昼休み、工場はピタッと静か。ファンファーレ工場に響き紅白幕は振り落とされた。嵐のような拍手。

聞いて下さい、何しろこれがビックリ。ただトラックをくれたのではない。いすゞに働く人達が各部に呼びかけお金を集め会社からトラックを買って、それを劇団に寄贈したのだ。ミュージカル「裸になったサラリーマン」をいすゞの人達だけでよもうりホールを満員にしてから十一ヶ月の準備と苦労のたまものだった。そしてビックリ、トラックのペイントも自分たちでやろうと盛り上がり、仕事が終わわり真つ暗になつて

から一月二月の寒風吹きさらす駐車場でトラックにスライドを映しペイントしたという。出来ばえは玄人はだし、劇団のどのトラックよりも派手だ。

まだ拍手がつづいている。いすゞの取締役さん、専務さんや工場長さんたちのスピーチに笑いと拍手。劇団の歌に拍手。大きなキーが劇団の運転手助手グループに手渡された。何んか、お嫁さんをもらいに来たような気がした。これ、もらって帰っていいんですよね。」に笑いと拍手。素敵な奇贈式だった。

せつかく来たので、工場の食堂で昼食をご馳走になりました。食堂の方々も明るく親切だった。その後、工場を見学させていただき役づくり。死ぬほど広い工場を三時間歩いた。砂型、キューポラ、プレス、組み立て検査、初めて工場に来た劇団員の目は白黒。「さっきの鉄が走ってる！」

そして五時半よりパーティー。苦勞話が出る出る。トラックはいすゞのパンフレット撮影用に作られた最高級車。トラックにはペイントされていた。それをがすのに、

剥離剤と定着剤を間違

えてはがれない。何日もかかったらしい。下

絵も寒い中何度も描きなおしたらしい。もめ

ごともあったという。パーティーの席上では

みんな笑っていた。ぼく達も感謝を込めて思

いっきり歌い踊った。「ミュージカルの時よ

り感動しましたよ。」の感想には喜んでいいの

やら悲しんでいいのやら。しゃべってしゃべってパーティーは終わった。ペイントして

てくれたいすゞの若者はそつとナミダして、会社の方々のありがとうありがとう

には、ぼく達恐縮しっぱなし。あげた方とも

らった方が同じぐらいすゞごく喜んでいて

いう素敵な関係は夜の川崎工場いっばいに

広がった。そのトラックはいま福岡県内をひた走

る。トラック四台バス一台。ひとときわ目立って走る新車。みんな手を振る。福岡県中二コニコ手を振る。そして日本中走る。いすゞのみなさんありがとう。



これがいただいた新車。
(撮影・英伸三)